

環境保全・創造の活動を讃えて

令和8年度環境保全功労者表彰

令和8年度環境保全功労者表彰の表彰式が7月15日に大津町役場で行われ、「株式会社もやいネット真城」が「地域環境美化功績者表彰」を受賞しました。

この表彰は、長年にわたり地域環境の美化活動に尽力し、顕著な功績があった個人や団体に贈られるものです。同社は、水田オーナー制度による農地保全活動や冬季湛水事業による地下水涵養をはじめ、遊休農地の解消、農地や道路周辺の草刈りといった美化事業に取り組み、その長年の活動が高く評価されての受賞となりました。



表彰を受ける
吉良代表取締役(中央)、松本取締役(右)

次代を担う若者が町に提言

ジュニアリーダー夢議会

ジュニアリーダー夢議会が8月5日、役場議場で開かれました。町内の中高生10人が議員役、2人が議長・進行役を務め、町の課題や将来のまちづくりについて、町長などに直接質問や提案を行いました。参加した生徒は、事前学習を重ね、自分たちの経験や関心をもとに準備。当日は、交通安全や子どもの居場所づくり、特産品開発、歩道の安全や給食など、身近な課題について意見を交わしました。それぞれの役割を堂々と果たす生徒たちの姿に、傍聴者からは大きな拍手が送られました。



大津中、大津北中、大津高校、翔陽高校、大津支援学校から
中高生議員が参加

新しい委員が決まりました

大津町固定資産評価審査委員会

6月の町議会定例会で町固定資産評価審査委員会委員として渡邊明さん(矢護川)が選出され、7月6日に金田町長から辞令交付が行われました。固定資産評価審査委員会は固定資産の評価額に関する不服について、中立的・専門的な立場から内容を審査するための機関として設置され、議会の同意を得た3人の委員により構成されています。委員の任期は3年間です。また任期満了に伴い、前任の二田水久雄さん(4期12年)へ長年の貢献に対する感謝状の贈呈が行われました。



左から二田水久雄さん、金田町長、渡邊明さん

血糖管理をもっと身近に

在宅唾液検査を活用した社会実証事業

(株)PROVIGATE、日本郵便(株)と「在宅唾液検査を活用した血糖管理サポート社会実証事業に関する協定」を7月9日に締結しました。この協定は、生活習慣病の発症・重症化予防を目的に、採血を必要としない在宅唾液検査により血糖状態を確認し、アプリによる健康管理や行動変容支援を組み合わせることで、健康づくりを日常生活の中で支える仕組みを検証するものです。また、町内の郵便局を活用して検体の回収・配送を行うことで、利用しやすい新たな地域保健モデルの構築を目指します。



協定締結後の記念撮影の様子

笑顔あふれる夏の夜を満喫

24店舗が集い多くの来場者でにぎわう

町役場周辺を会場に、「大津夜市」が開催されました。会場には24店舗が出店し、多彩な飲食や物販ブースが軒を連ねました。ステージでは、演奏やダンス、太鼓などのプログラムが披露され、会場を大いに盛り上げました。夕方から徐々に来場者が増え始め、各店舗やステージ周辺では笑顔あふれる光景が広がり、多くの来場者に夏のひとときを楽しんでいただく機会となるとともに、地域のにぎわい創出につながるイベントとなりました。次回は10月に開催予定です。



屋台がずらりと並びにぎわう会場

町の皆さんへ感謝を込めて

国際交流員 活動報告・作品展を開催

約2年間、町国際交流員として活動していただいたサバナ・エリスさんが、8月27日に任期を満了し、その後アメリカへ帰国されました。これに合わせ、サバナさんのこれまでの活動報告も兼ねた作品展を8月3日から5日の3日間開催しました。これまでの活動の様子を伝える写真や、町に来てから新たに取り組み始めた墨絵が並び、会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。最終日には、サバナさんも在廊し、作品展を訪れた方々と別れの挨拶を交わしていました。



作品展会場で笑顔を見せるサバナ・エリスさん

はっけよいのこった!!

大津高校生が不知火光右衛門の巨大紙相撲制作

大津高校美術コース3年の千葉絆さん、谷口満里奈さんを中心としたメンバーが、不知火光右衛門、からいもんくんをモチーフにした高さ約170cmの巨大紙相撲オブジェを制作しました。昨年の生誕200周年記念イベントを機に光右衛門について調べた千葉さんが、不知火型を完成させた大津町の偉人を多くの人に知ってほしいと、仲間とともに約2カ月かけて作りました。

7月25日の夜市で初披露し、現在は役場4階展望ロビーに展示しています。



巨大紙相撲「はっけよいのこった!!」と
制作者の千葉絆さん⑥、谷口満里奈さん⑥

言葉の壁を越えて交流

台湾・マレーシア・スウェーデンと交流

台湾・マレーシア・スウェーデンの選手と、クラブおぼジュニアなどによる国際交流バドミントン練習会が7月11日・12日に町総合体育館で行われ、約100人の選手が参加しました。指導には、福岡市でバドミントン講師を務めるヘンデル・リンさんがあたりました。参加者からは「日本と違うプレースタイルを経験できたり、英語や日本語でコミュニケーションが取れたりしてよかった」「スマッシュなどがぎりぎり狙ってきすぎてよかった。取り入れたい」といった声が聞かれました。



白熱したラリーを繰り広げる選手たち